

# 五十五万石

近畿税理士会和歌山支部

発行

和歌山市湊通丁北1丁目1-3  
TEL.26-3600 FAX.24-1474



『和歌山城』

撮影 速水慎一郎 会員

天正13年（1585）豊臣秀吉の弟秀長により築城される。その後、浅野氏（広島へ転封）の居城であったが、元和5年（1619）徳川家康の第十子頼宣が入国してから現在に至るまで御三家紀州藩55万5千石のシンボルとして市民に親しまれている。なお現在の天守閣は戦災で焼失後、昭和33年に復原されたものである。

## 目 次

ごあいさつ	支部長を退任して…………… 5
「五十五万石」支部報発刊に寄せて…… 2	ロンドンの夏…………… 6
「支部報」創刊によせて…………… 3	不如人和…………… 7
副会長就任後の近況報告…………… 4	鉄拳制裁…………… 8
支部会報「五十五万石」創刊によせて…… 5	編集後記…………… 8

# ごあいさつ

## 「五十五万石」支部報発刊に寄せて

和歌山支部長

川 邑 宗 司



私達支部新執行部が誕生して、はや5ヶ月が経過しようとしています。この間、不慣れな私にも拘わらず、優秀な副支部長さんや、幹事の役員先生方に助けられて、なんとか今日までやって来られましたのも、会員先生方のいつも変わらぬ会務へのご協力、ご支援の賜と、今更ながら心から感謝申し上げる次第です。

従前、和歌山部会当時から、「和税ニュース」、そして「和税会報」として発刊されておりました会報が、五十五年の税理士法改正に伴い、和歌山支部が誕生してから休刊しておりました。

この度、支部広報部担当の役員のお骨折りで、その名称も新たに「五十五万石」として発刊される運びとなりましたことは、会員が久しく望んでいたことでもあり、会務と会員皆様とがより身近なものとなることでもあり、非常に喜ばしい限りです。

ご承知のとおり、当支部も会員227名を擁する大支部となった今、会報は相互の意思疎通や情報交換の場として、又支部運営の状況や会員の消息を伝えるツールとしてなくてはならないものであります。

一方、近畿税理士会の森金次郎会長は「活力ある税理士会」を目指し、会員先生の生の声を吸収し、その意見を会務にできるだけ反映したい。そのためには相互の「信頼と自覚」が今必要だとおっしゃっておられます。又、

91年バブル崩壊後の長びく景気低迷と経済構造の変革は、私達の関与先中小企業の経営を直接圧迫しており、この時期にあって、税理士が、税の専門家として「社会の信頼に応え、自覚と秩序ある業界確立と団結」に向けて、地域に根ざした支部運営を私達も志向しております。この会報発刊は、正に時宜を得たものであります。

この会報に、会員の日頃の抱負や会務に対するご意見を、積極的にご投稿いただくことを切にお願いいたしますとともに、会員は言うに及ばず、関係各位にも会の活動にご理解いただける私達の機関誌として、皆様のお力添えで末長く継続発行されることを切望する次第です。

終わりに、会の発展と会員各位のご健勝で今後の更なるご活躍を祈念申し上げ、会報「五十五万石」発刊のご挨拶といたします。



# 「支部報」創刊によせて

和歌山税務署長  
中澤 崇 浩



晩秋の候、近畿税理士会和歌山支部の諸先生方には益々御清栄のこととお喜び申し上げます。

諸先生方には、税の専門家として御活躍されていることはもちろん、平素から税務の良き理解者として、税務行政の円滑な運営に深い御理解と多大の御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

このたび近畿税理士会和歌山支部の「支部報」が創刊されるにあたりまして、一言御挨拶を申し上げます。

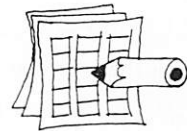
近畿税理士会和歌山支部におかれましては、平素から活発な事業活動を展開されるとともに、「確定申告期」をはじめ「税を知る週間」行事などに支部一体となり積極的に取り組んでいただいておりますが、この度の「支部報」の発行により、会員の諸先生方に対して一層

タイムリーに情報の提供等が行われ、和歌山支部の活動が一段と充実した内容になるものと期待しております。

ところで、このところの税に対する国民の関心は従来にも増して高まりを見せており、税負担の公平確保に対する要請が一段と強まっております。

私ども税に携わる者といしましては、適正公平な課税の実現と期限内収納の確保に向けて最善の努力を尽くしたいと考えておりますので、皆様方のお一層の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、近畿税理士会和歌山支部の益々の御発展と、会員の諸先生方の御健勝を心から祈念いたしまして「支部報」創刊にあたっての御挨拶とさせていただきます。



## 文芸欄

岡本 たかを

白南風やアメリカ村の捨屋敷  
白き艇舫ひはまばう咲き乱れ  
鄙にして御座所址とや姫女苑  
薪能まづ蝙蝠の乱舞かな  
千人分炊ぎし竈ちちと鳴く

近畿税理士会和歌山支部 木下 栄繁

飲むなどは言わぬ主治医も左利き

正義感持てば世間が狭くなる

旅費は持つ手ぶらで顔を見せに來い

酒代は足りてますかと子の便り

仲人の嘘に気付いた倦怠期

友の計に手向けの一句筆洗う

胃カメラは大安の日に飲むと決め

身銭切る役に就くなど妻が言う

遠来の友に秘蔵の栓を抜く

母上様初サラリーの一部です

言い足らぬ小言二階へ追って來る

定年にまだ陽の高い空を見る

愛醒めた別れ話は紳士の

老の部屋孫ら駆け込み寺にする

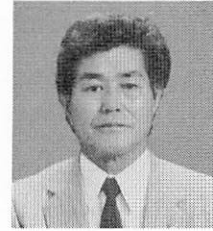
人柄の良さが二の足踏まさない

計

## 副会長就任後の近況報告

近畿税理士会 副会長

中 北 典 夫



本年6月22日の総会に於いて副会長に就任、研修部と厚生部を担当することになりました。

副会長の職務は、会長を補佐し担当した部、委員会に対し会務執行について、助言することが出来るとあります。

近税会の研修部は、日税連に於いても特に期待された伝統ある研修部であるため、自己研鑽をしながら適切な助言が出来るよう努めています。

研修部に於いては、常により会員の資質向上を目指して、各研修会を実施して参りましたが、出席率が非常に低調であるため、又、全国统一研修会などの会場が、都市に集中していたことにも原因ありと分析し、特に遠隔地の会員を対象に実務に密着したテーマを設定し、地域研修会を開催すべく企画致しました。

和歌山県は田辺伯扇閣で、滋賀県は草津エスピアホテルで、京都府北部、兵庫県北部は福知山サンプラザ万助にて、それぞれ開催致します。このように会員が一人でも多く研修会に参加出来るよう特別企画致しましたのでご理解を頂きご参加下さいますようお願い致します。

又、平成8年度に日税連公開研究討論会を北陸会と共催で近畿地区にて実施することが決定されています。研修部としては、大成功させるよう準備を進めています。ご期待下さい。

尚、研修部は、部長以下23名で構成されていますが、8月11日の初会合では、内22名の出席により研修部会は終始、熱の入った真剣な討議がなされ、実りある初会合であったことを申添えます。

又、厚生部は、10年前に私が厚生部長を拝命し1期2年を勉めましたので、メンバーは変わっていますが大変なつかしく古巣にもどった感が致しました。

8月9日に初会合を開催し、部長以下なかなかそして真剣にいよいよ始動致しました。分掌事務は、保険、慶弔、健康管理、親睦融和、共済基金、共済制度の管理運営、融資斡旋、福利厚生となっており、本年は特に阪神大震災発生により地域対抗競技を中止したため事業は少なくなりました。

次年度は、親睦融和を図るため、又会員平等の原則を考慮して地域対抗競技会を開催出来るよう準備を進めます。

私は常に、会務最優先で会員の手足となって努めることを自覚していますのでどうかご意見等があれば聞かせて頂きたく、今後共ご支援ご指導下さるようよろしく御願い申し上げます。最後に和歌山支部の皆様方のご健勝とご事業のご発展をご祈念申し上げ近況報告と致します。



10月6日実施した支部研修バス旅行(味覚の旅)の1コマ  
-兵庫県三田市より-

## 支部会報「五十五万石」創刊によせて

(社)和歌山納税協会 専務理事

野村 三夫

・ 会報創刊にあたり心からお祝い申し上げますとともに、親しみのある情報提供紙になることを切に願っております。

さて私は、40余年間国税の職場に勤めさせていただき、縁があって納税協会にお世話になっておりますが、その間、税理士会とはパートナーシップで、申告納税制度、適正公平な課税、税知識の普及拡大といった目標に向けて、お互いに手を携えていく、これまた力強いパートナーであると思っております。

ここで少しばかり納税協会のことを紹介させていただきますと、昭和15年に源泉徴収制度ができました。そこで、民間の納税者が集まって、昭和19年4月に和歌山源泉納税報国会が誕生したわけで、昭和53年2月に社団法人として設立し、一つずつでは力を出せないで、連合体として近畿83の納税協会が財団法人納税協会連合会の傘下になり、50年が経過いたしました。その間、租税を通じて明るい地域社会の建設、あるいは公正な立場で納税者の利益を擁護しよう、さらには申告納税制度の理想実現のため微力ながら努力して来ました。これは税理士会が標榜されていることとも一致すると思えます。

私どもの納税協会は、近畿だけの組織であって、全国的には法人では全国法人会、個人で

は全国青色申告会というのがあって、法人、個人は別個の組織で、近畿にあります納税協会は、法人と個人が一体となって、お互いに良い面、悪い面を補完しあっている組織で、大企業から零細な事業者もありますので、当協会も税務援助ということで、税理士会のお力添えを得て、零細事業者に記帳指導とか申告指導をお願いしております。当協会の事業活動をする上では、税理士会とは切っても切れない関係であって、常々頼りがいのある組織だと思っております。

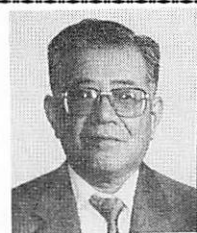
ところで、近い将来マルチメディア社会が到来し、現在記帳ソフトも市販されており、企業が自由に使用できますので、協会として次の事業も今から考えておかねばならないと思います。例えば、所得税、法人税、相続税など何でもそろえた組織といった方向が必要な要素になってくるのではないかと思います。いわゆるトータルアドバイザー的な仕事が増えるのではないかと思います。

税務当局に信頼され、税理士会と協調体制をとりながら会員のニーズに合った事業活動を推進するよう心掛けさせていただきますので、何分よろしくご助言いただければと思っております。

## 支部長を退任して

前 支 部 長

森 下 旺 胤



平成5年5月14日開催の第13回支部定期総会に於いて支部長に選任されてより2年間の任期を、大過なく努めることが出来ましたこ

とは、当時の役員の方々がそれぞれの立場で一生懸命会務に努められた結果であり、また会員皆様方の力強いご支援の賜物と心より御

礼を申し上げます。

さて、ふりかえて見ますに和歌山支部長は、単に和歌山支部だけでなく県下の支部連絡協議会議長に選任され他の団体との協議、交渉、例えば和歌山県商工会連合会と小規模事業者の税務指導についての協議会開催、また納税協会の副会長に、自動的に就任することになり、本会関係についても支部長以外にも本会設立30周年記念事業企画委員、同実行委員会委員、役員選挙制度の見直しに関する検討審議会委員、財務検討審議会委員、近畿税務研究センター設立発起人等々当初思っていなかった役が付きびっくりしました。そのため種々の会合に出席しなければならず、苦

手な挨拶（ある時は1日に3回も挨拶）カラオケもしなくてはならず、初めのうちは苦になりましたが段々上達し、まあまあの線まで来ました。これだけが唯一の取柄があったと喜んでいきます。

また、平成5年11月にあった事件の時には、新聞社等報道機関から電話等の攻撃を受けましたが、これもよい経験になりました。

色々の事がありました、無事任期満了し、今はホッとしておる次第です。

最後になりましたが、会員の皆様方の御健勝を祈念いたしますとともに川邑支部長を初め新執行部のために惜しみないご協力と力強いご支援を賜りますように切にお願いします。

## ロンドンの夏

岡 平 蔵

「8月14日から1週間お休みをとったのであそびにきませんか」という娘の誘いによって、この夏妻と2人ロンドンへ旅立った。娘はシャリーというアメリカ人と結婚して、第一勧銀ロンドン支店に勤務している。

ロンドンは4回目になるが、ロンドンでの楽しみは街中いたるところにある古式豊かなパブ（酒場）と公園、それに食事がある。ロンドンの食事がまずいのは定評だが、世界中の食事が揃っており、イタリア料理やインド・ギリシャ料理などは結構うまい。

パブはどの店もお昼から開いており、木質のドアを開けると別世界のような重厚でクラビヤカな雰囲気が目に入る。かつて私は、テムズ河の近くにあるセント・ジェイルス・カレッジへ1ヶ月留学したことがあるが、その学校の隣に有名なシャーロック・ホームズ邸というパブがあり、友人たち（殆どがヨーロッパ人）を誘ってはそこへ入り浸っていたものだ。

滞在中は、毎日シャリーの運転であちこち

案内してもらったが、ゴルフ場へもつれていってもらった。シャリーはゴルフはやらないが、娘は結構120ぐらいで回るので、親子3人水入らずで楽しむことができた。

ロンドンは一十数年来の猛暑で、200年来の渇水状態ということであったが、暑いのは日中3時間程度で、それもせいぜい30度ぐらい、朝夕は寒いくらいだ。しかし公園の芝生は、みな褐色に焦げており木々の青さとは対照的だった。

今年は戦勝50周年記念ということで、いろんなイベントが行われていたが、テムズ河に打ち上げられた花火は圧巻だった。

最後の晩は「お別れパーティー」ということで日本レストランへ案内してもらった。シャリーは日本料理や日本酒が好きで、夜遅くまで盃を交わしながらしゃべりまくった。「日本へいったら思いきり寿司を御馳走して下さい。」というシャリーに、私は「It's simple!」（やさしいことだよ）と答えた。

翌日、娘夫婦にヒースロー空港まで送ってもらって、帰途についた。



ヒトノワニシカズ  
不如人和

片山 明

当節日本語の乱れは、真に甚だしいものがある。テレビを見たり、ラジオを聞いても、言語を生命とするアナウンサーの言葉使いには必ず一つや二つの誤りがある。ましてタレント連中の言葉の乱れは、時に、聞くに堪えないものがある。尤も言語学者といわれる大学教授が「もうレル言葉もいゝんじゃないですか」等と言う時代であるから、正しい日本語、美しい言葉使いを求めるのは最早時代おくれなのであろう。その時代おくれかも知れぬ私が又真に古い漢文を引用するのは、年のせいと御寛恕願いたい。

さて中国の古典「孟子」の中に

「天の時、地の利に如かず、地の利は人の和に如かず」と言う言葉がある。言う迄もなく事をなすにあたっては、天候その他の自然現象がよくても地勢の有利がなくてはうまくゆかない、又地の利があっても人の和合一致がなければ何事もうまくゆかない、物事を成就させるには人の和が何よりも大切である」と言う意味である。どうも前置が長くなったが、我が近税会和歌山支部も創設以来既に十有五年を経過した。我支部会員は今迄団結し、和合を第一として先ずは無難に運営されて来たと言えると思う。勿論近税会和歌山支部を中心として、他に政治連盟あり、桜美会あり又青年税理士会、更には近税正風会もある。それらは皆それぞれの立場に応じ、それぞれの目的をもって運営されているわけであるが、各会及び会員の最終目的とする所は、税理士として、その地位の向上、社会的信用の獲得、そして税理士として納税者の信頼に応え、その使命を果たすという事である等であるし、又そうでなければならぬ。会員220余名各々の意見もあり、又異なる所見を有するのは当然である。従ってその立場において互いに議

論し、意見を戦わせるのは大いに結構である。しかし結果正しいと思われる方向に大勢の意見が纏まれば、これに従うのが民主主義の大原則であり、議論の結果更に団結を固くするものでなければならない。

次に、我支部からも本会に対し役員や各委員を選出して、それぞれの部署で活躍していただいている。これは言わば滅私奉公、真に御苦労様と言う他はない。

さて本会で活躍される先生方に御願いたいのはそれぞれ部署は違っても互いに協力して、和歌山支部会員の団結の力を誇示していただきたいものである。徒に自我を通し自説に固執してその団結を乱し、他支部会員の躰を壊す様な事のない様（勿論その様な事はあり得ないと思うが）老婆心迄に苦言を呈しておきたい。



さてわが和歌山は風光明媚、萬葉の昔から歌人達によってその美しさを称えられている。山部赤人は長歌によって和歌の浦の美を観念的にほめ、第二反歌にて有名な

若の浦に 潮満ち来れば濁を無み 葦辺を  
指して鶴鳴きわたる  
と詠んでいる。

この美しい和歌山のわが近税会和歌山支部の会員たる私達は、その税理士となった立場の違いや老若、男女を超越し一致団結してわが支部の一層の発展を期して行きたいものと心から願う次第である。

### 図書活用の御案内



税理士会事務局には、判例集、路線価図、ゼンリン地図等、業務の参考となる有益な書籍を多数取り揃えております。

どうぞお気軽にご利用下さい。

## 鉄拳制裁

福井眞八

大河ドラマで和歌山県市が後援している八代將軍吉宗も愈々佳境に入って来た。將軍になっても四面楚歌で「將軍職が厭になった。紀州へ帰りたい。」と、子供の頃よりの近従に、駄々をこねて思いざま撲られ、目が覚めるシーンあり。

又、気に入りの側近が尊大過ぎると、老中方から攻め立てられ難渋している際、今度は吉宗がその家来を庇う意味から、鉄拳をその側近に浴びせて、その場は事無きを得る場面もあった。

体罰否定の現在、その脚本担当ジェームス三木も仲々味な事を書くなあと感心した。

昔読んだ「学生時代」と言う本に秀才の集まりである東大の前身、旧制第一高等学校の学生にも校則を破って当時の赤線地帯へ寮を抜け出して通っていたのが発覚、学生会議の結果、上級生以下高張り提灯二張り照らす下で破廉恥行為反省の意味も込めて、上級生から夫々姓名を名乗って鉄拳制裁を行う仕来りがあった。弊衣破帽の旧制高校の全盛時代であった。

旧制県和商卒の私は戦時中の為か大変境遇が悪かった。近くに陸軍射撃場あり、毎度兵隊が押られてピンタを喰らっているのを目撃する。その影響もあり、軍事教練教官、生徒

監の教師は勿論撲るのが当たり前と思っている先生が多かった。校則は厳しく朝礼は整列して半時間以上は毎度。背の低い教師で飛び上って手加減なく思い切り撲るので潜水艦と言う仇名で、それも「よそ目した」「私語を囁いた」と簡単な理由で赤く腫れる程叩かれるのだが、生徒はUボートにやられたと諦める者が多く、私もその一人であった。その頃は撲られる事に馴れて、皆体験した者ばかりで学校はこんな処と思っていた。

現在、体罰即ち教師が生徒を撲る事が問題視されているが、昔はこんな事は別段暴力という大げさな考えは無く、日常茶飯事であった。

撲る方も要領よく、怪我をさすことも無かった時代である。薬も毒薬や劇薬は処方せぬに限るが、病状によっては特効薬になる事もある。体罰も無いのが当然だが、例外的には止むを得ない事もあると想う。私も和商の頃は可成りピンタを喰ったが、別段悪意でやったとは思っておらず、撲られた尻から駄洒落を行って傍の者を笑わせて面目を保っている者すらあった。

要は、或る程度の体罰は神経質にならず自己修養の糧と辛抱して、時の経過と共に何とも感じなくなると私は考える次第です。

然し、その頃撲った教師は全部、撲られた生徒も6割近くも、あの世へ旅立ってしまったと思うと寂しい限りです。

### ◆ 編集後記 ◆

産みの苦しみを味わいながらもお陰さまでやっと支部会報も陽の目を見る運びとなりました。会員諸兄のご協力と熱意にひたすら感謝いたします。

浅学非才の委員らで出来栄えの程はお気に召さぬと存じますが産声をあげた赤ちゃん会報をお育ていただきますようお願い申し上げます。

今後は活動状況の報告、意見交換、優良図書のおすすめetc…バラエティに富んだ内容でお送りする予定です。乞ご期待!!

なお、諸先生方からの積極的なご投稿をお待ちしております。



広報委員会

岡田将生・中井典子・岡野良平